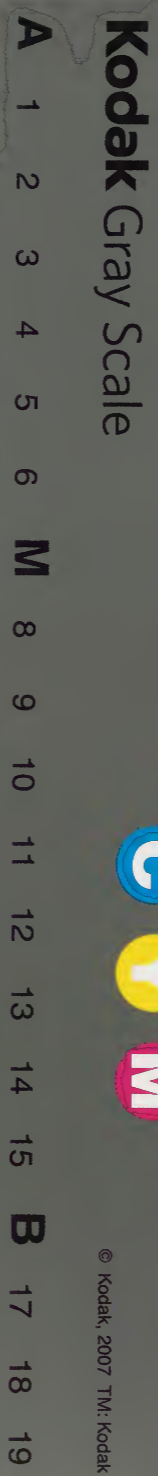




内閣文庫	
番號	和 17331
冊數	2 ( 1 )
函號	154 48

和書門  
一七三三  
二三三  
二三五  
二册 三架 函 號 類

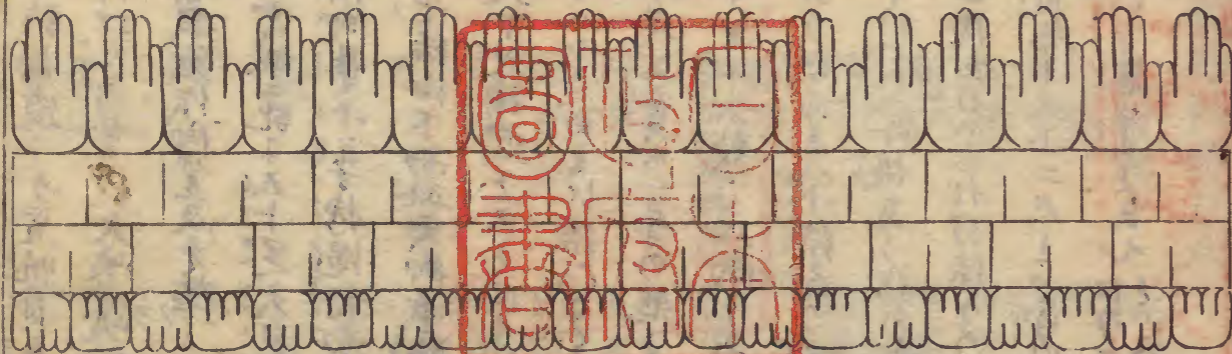
式器袖鏡初



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



皇朝大尺起象



タテマツ  
手置枕貫  
神の名を  
考ふる小  
手置を  
字を毛し  
やう平を  
置あり枕  
貫ハビロ  
あり即ち  
ひらけ和  
言尋の繩  
小手と置  
ひらひ量  
をと教  
神の徳を  
かく林を  
名ふるの  
大尺即今  
の曲尺を  
唐の大尺  
の証長に  
ありと云  
誤あり物  
素くい  
信光皇朝  
三種尺考  
小いさう

# 武器袖鏡

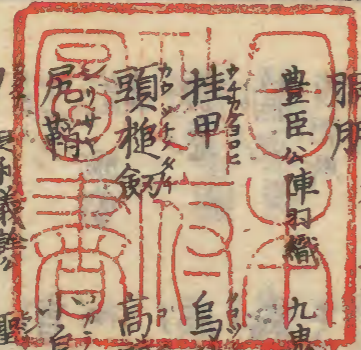
武  
器  
文  
庫



古語拾遺に手置枕負彦狹知二  
 神以天御量氏大峽小峽之材而造  
 瑞殿兼作御笠及矛楯といへるは  
 出雲風土記に五十足天日杵宮之後  
 横御量千尋榜繩持而百結結  
 八十結結下而此天御量持而所造  
 天下大神宮と云と同一尋の繩  
 と八十と百とに結ひさくはてし  
 今考ふ實も一尋の繩子圖の如く  
 手を平敷敷く八兩平ふく八十指  
 あらゆるゆる八十結あり又握ると  
 とかれ二十握ある指の敷く握り  
 五指あればおれ百結なりかくてそ  
 自然に大小二尺といふゆゑを  
 已り高量と云ふ伊弉家にてより  
 とハ又異なり

武器袖鏡目次

皂纒頭巾 袷 袷切  
 半臂 袷切  
 淨衣 長緋直垂  
 水干 鎧直垂  
 胴服 奈須興市 藤花院殿  
 豊臣公陣羽織 九鬼家陣羽織  
 挂甲 烏袈槌刀  
 頭櫃 高麗劔  
 居箱 小鳥丸  
 刀 聖柄刀  
 金刀 丹波忠守刀  
 燧袋 ミセガヤ  
 鏢 弓  
 弓袋 靴  
 靴袋 矢





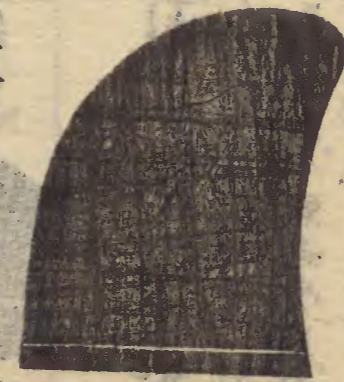
鏡鏡	古長	壺鏡	葵衝	韓衝	水干鞍	賴朝卿	筒丸	腹卷	鎧	中卷	筑紫長刀	槍	戈	竹籠	鐵籠
武藏鏡	古短	朝鮮鏡	鎧輪	杏葉衝	式衝	軍陣鞍	鞍	腹當	襦	曹	長刀	神代鉾	戟	逆頰籠	鞍
							貞盛							差籠	

具裝	竹根鞭	新田義宗	幕	奈須氏	武田信玄	明珍系圖	鎧工系圖
鞭	軍配	太田道觀	旗	武田信光	母衣		
信長公			賴義				



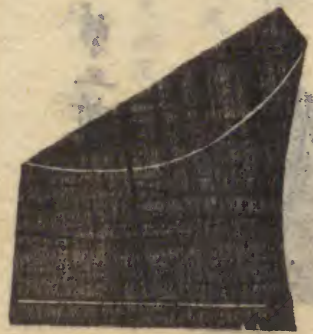
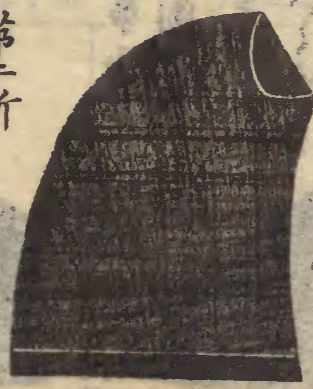
皂纒頭巾 兵衛衛士並用  
皂纒（多）不（少）化（多）る

第一折



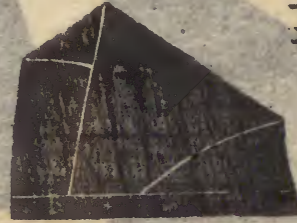
塗て不漆黒を縁分

第二折





第三折

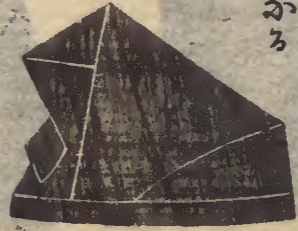


第三折  
額上を押開ハ  
圖の如くふる

天武紀

いとゆる

圭冠あり



皂綖 今義解ふ綖冠統と  
あり統冕冠塞耳者と説文  
小兒也又垂于冠兩旁若今之  
條繩左傳疏子見ゆれハ今の  
綖と纓を一川とせし者と  
いふ

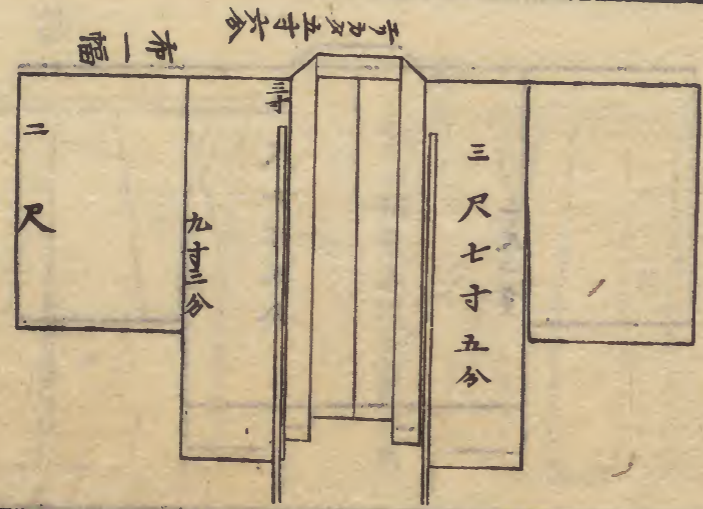
衫

上古兵士衛士所用

延喜式衫料細布三丈又ハ

二丈一尺四尺

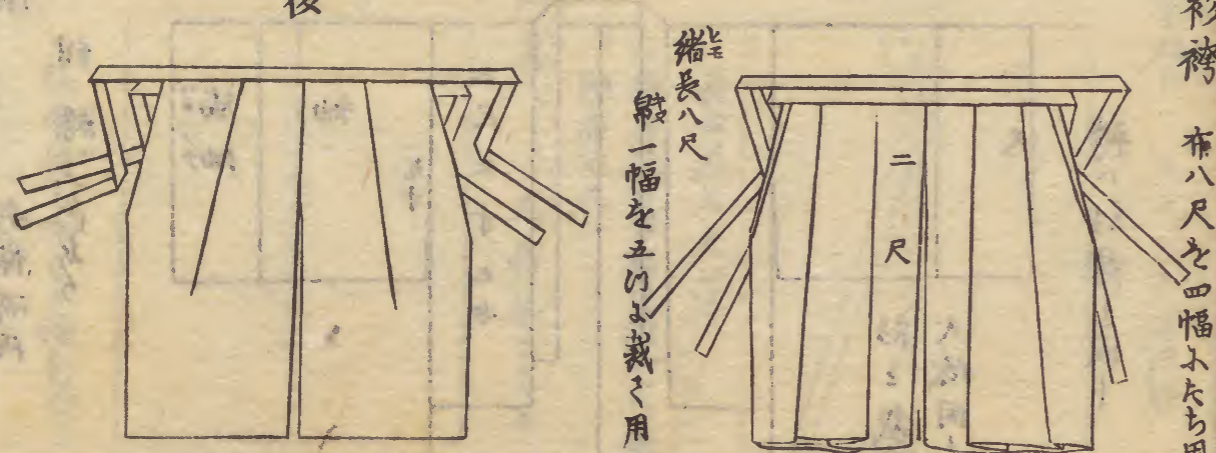
桃皮染 皂色二種あり



八尺 袖二  
一丈四尺 身  
八尺 襟帶紐



後

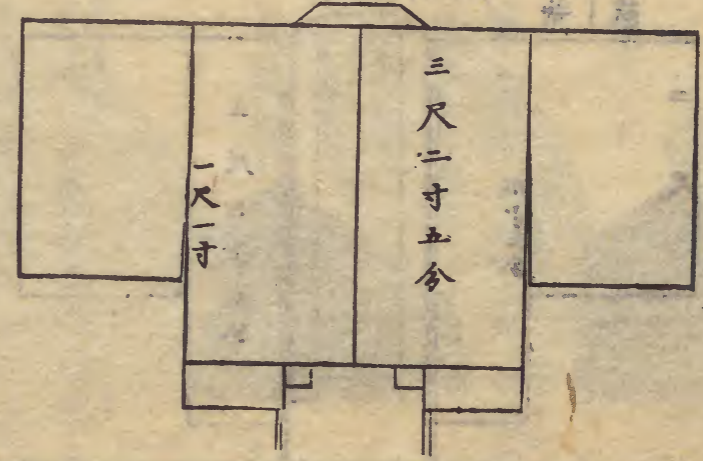


襟長八尺  
 第一幅を五のよ裁る用

衫袴

布八尺を四幅ふたち用

同裏

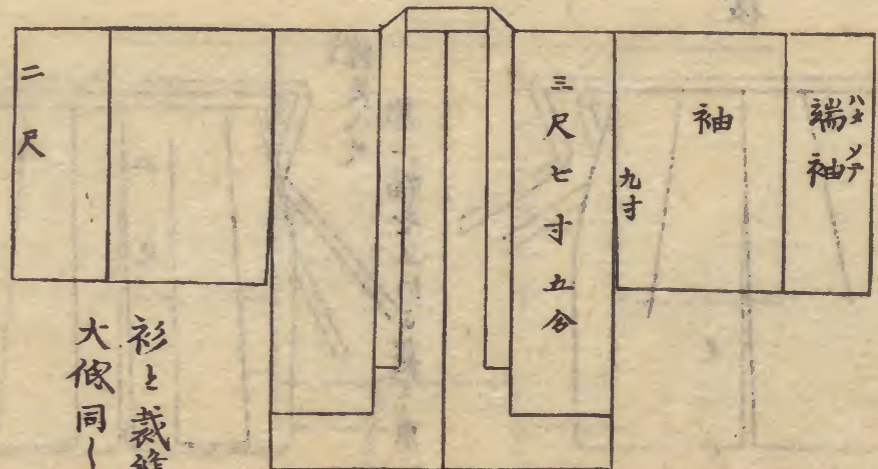


三尺二寸五分

一尺一寸

襖

紺縹二色あり  
兵衛所用

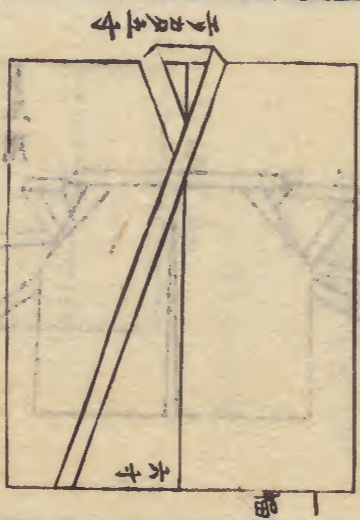


袴ハ衫袴と同じ

衫と裁縫  
大依同一

半臂

上古白丁所用服

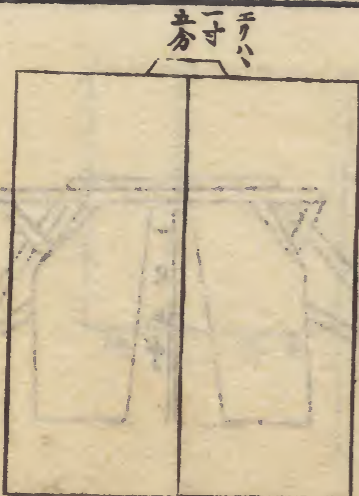


長曲尺三尺二寸

延喜式云半臂縮二丈袴  
細布七尺

同裏

又肩衣と云



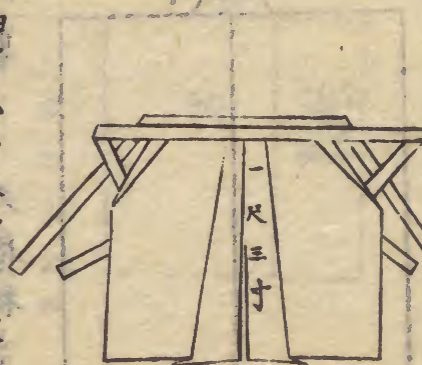
後法被と称する物是也



袴

後袴切と云

細布一尺八寸



細布一尺八寸長七尺  
六寸長六尺五寸を紐二條  
不裁<sup>リ</sup>の残を一尺二寸の幅  
とし一尺八寸長五寸を  
子不用

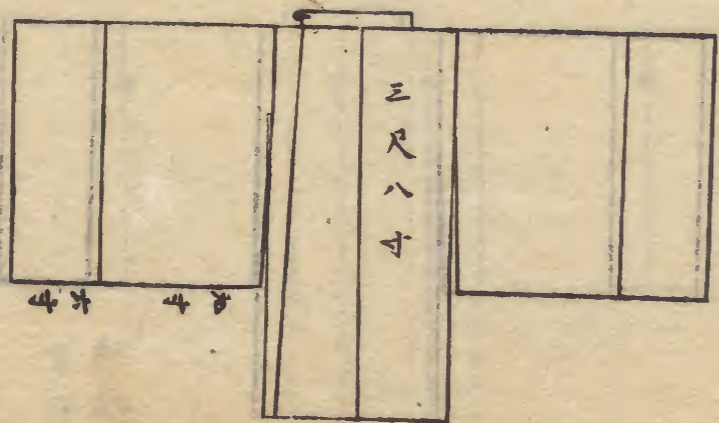


浄衣

上古兵士乃服なり  
白下も時ふり  
服也

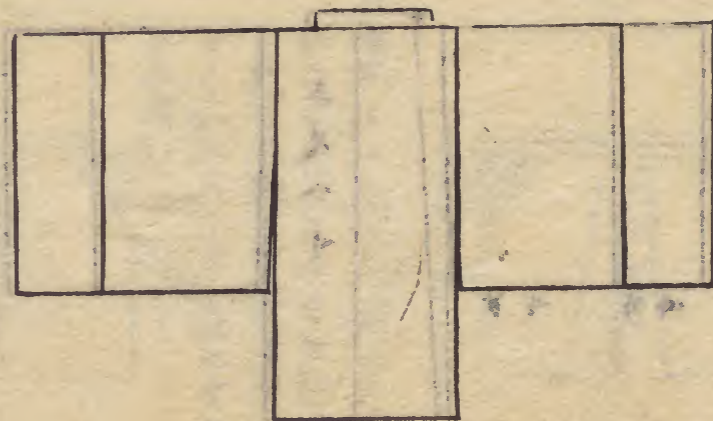
一尺八寸

三尺八寸





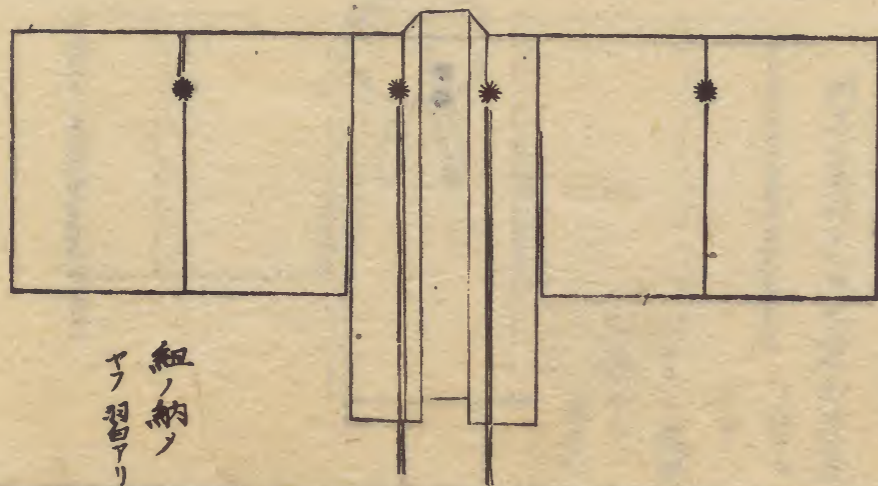
同後



兵士衛士可服

長縮直垂

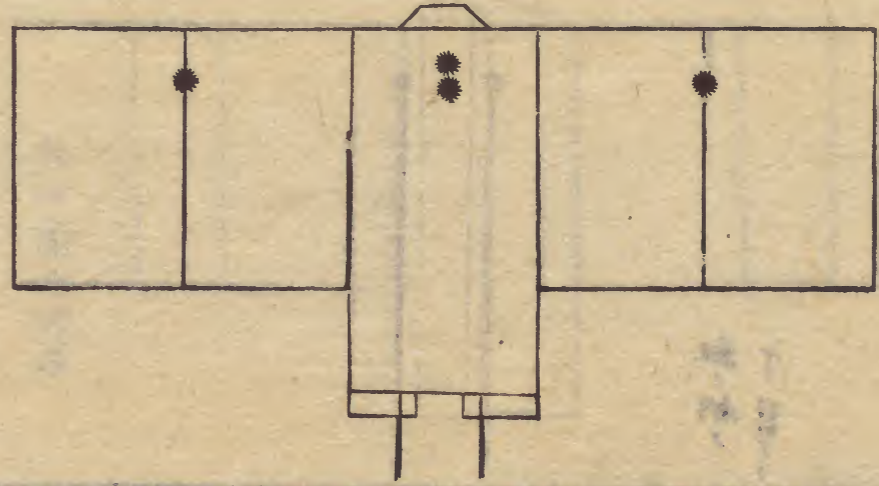
兵士衛士兵備  
通一用也



紐ノ納  
丁ノ羽アリ



全上後



水干スリカン

保永四年四月十七日頼朝卿  
高倉宮令旨披園の時水干  
をめぐりて入時前産洗  
同年五月十七日大倉御後從

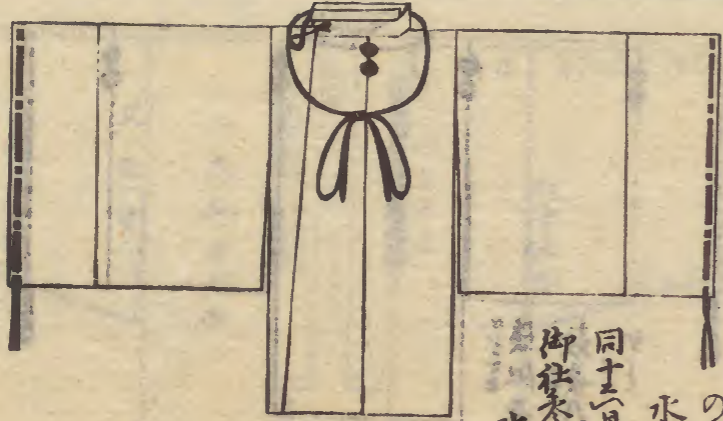
の時

水干

同十一日鶴岡

御後從

水干



同



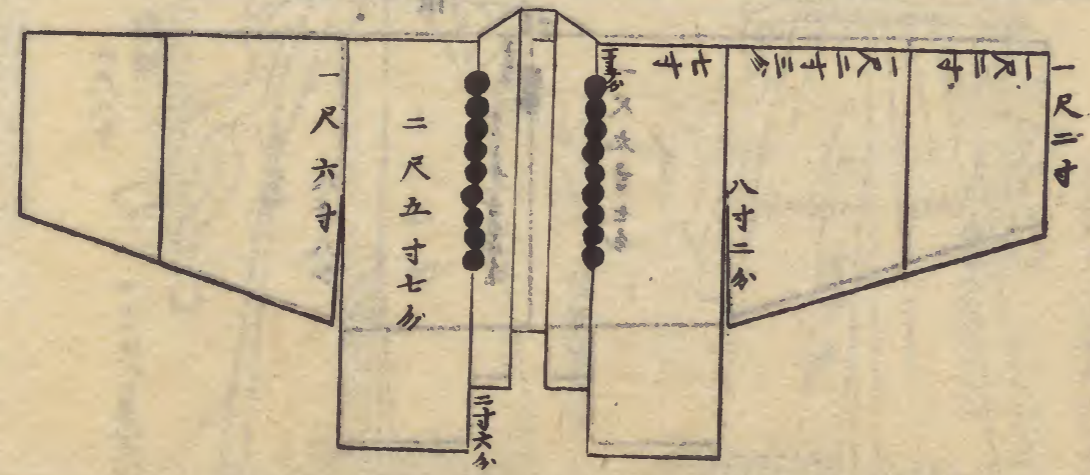
同後



後紐長  
長乃二川  
かと

袴の直垂の袴と  
のくるとあり

鏡直垂





後紐  
六尺八寸

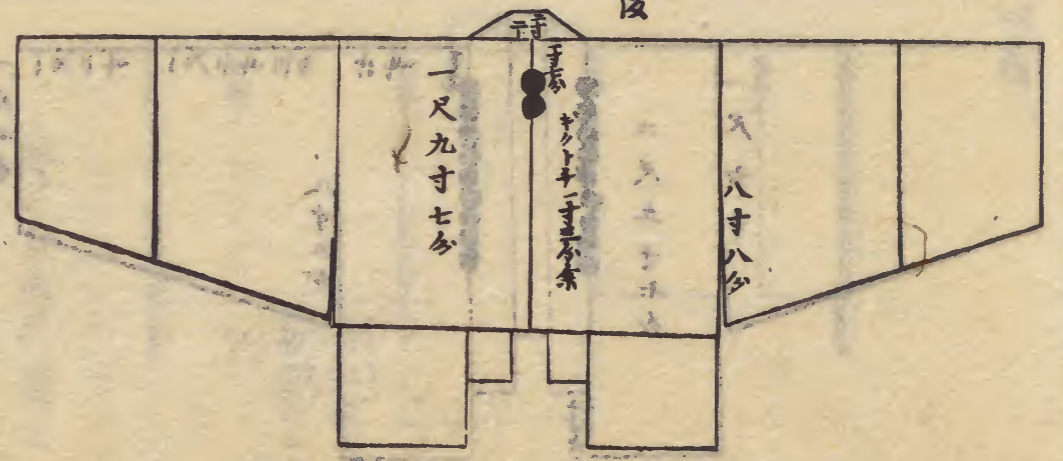
下十六寸九分四厘



前紐八尺八寸七分五厘

鏡直垂袴

後





那須與市胴服

一尺七寸



地布被覆條

同後

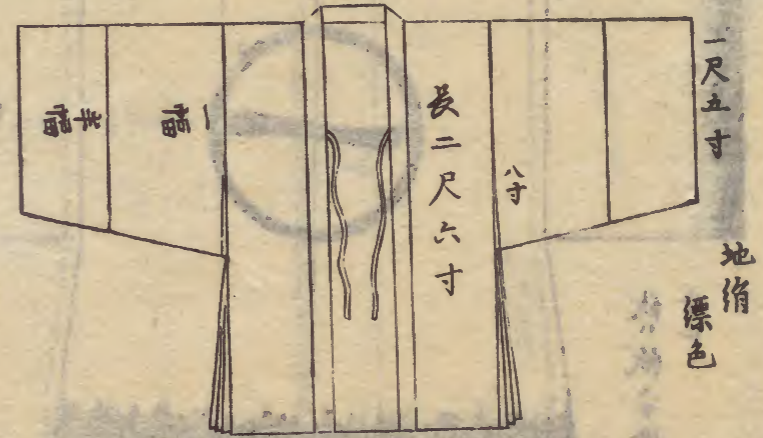
一尺七寸



依紙ニテ縫  
付ル



鹿苑院教御胸服

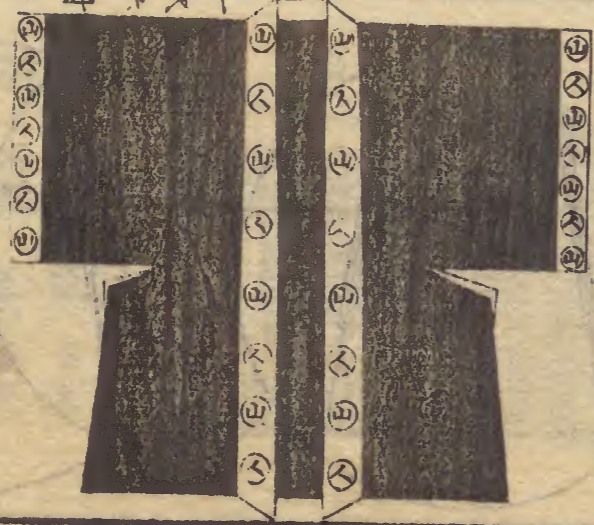


嚴島詣の時供奉一同よ  
は胸服を着きむ

豊臣公陳羽織

地黒ヒロウト單

一尺六寸五分



袖縁クロシマ幅一寸八分

紋徑一寸七分全分出シ

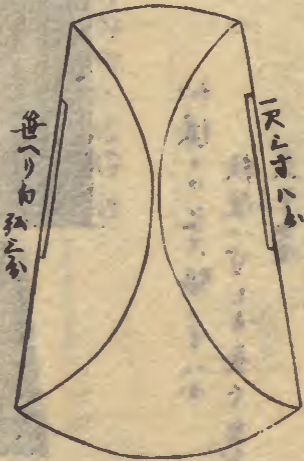
文字墨

襟縁クワニス幅四寸四分

紋徑三寸八分



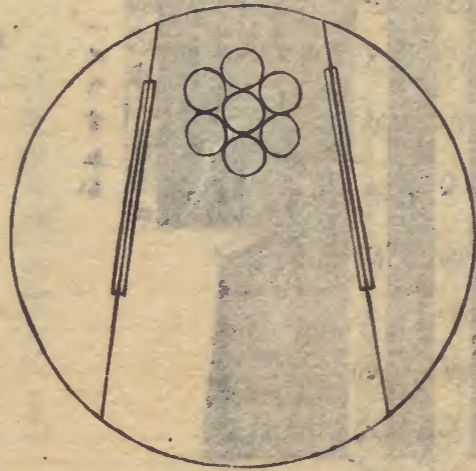
九鬼家陣羽織



地那羅紗

紐五寸八分

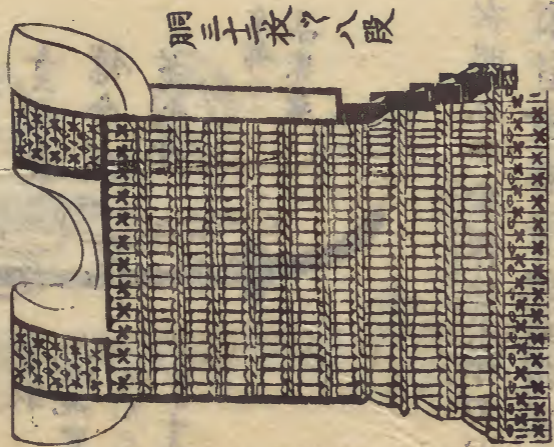
一尺二寸八分



圓徑二尺九寸

掛甲

前後草摺四段  
小札三十八枚



八段之小札

小札 金漆  
領 紅縮  
裏 白布  
縁 黒革  
正應二年五月寫



烏装横刀 兵衛衛士所用

柄 櫻木長六寸六分黒漆

刀長二尺六寸

鞘長二尺六寸六分黒漆平文

律波金

口金一重

甲金一枚

目貫金

責金一枚

鍔金一枚

芝利金

京都

某家藏



帶取

赤地唐錦

長九尺

弘二寸五分

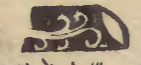
衣服令ふ金銀装横刀ハ兵衛督衛府督佐の禮服を肴一又朝服の時佩る処あるよし

頭櫃劍

陸奥白川郡船田

村安永九年二月

地を掘く得たり



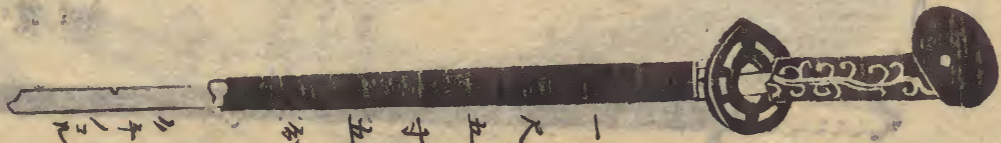
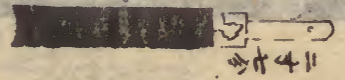
二寸六分



一十九分



一寸五分

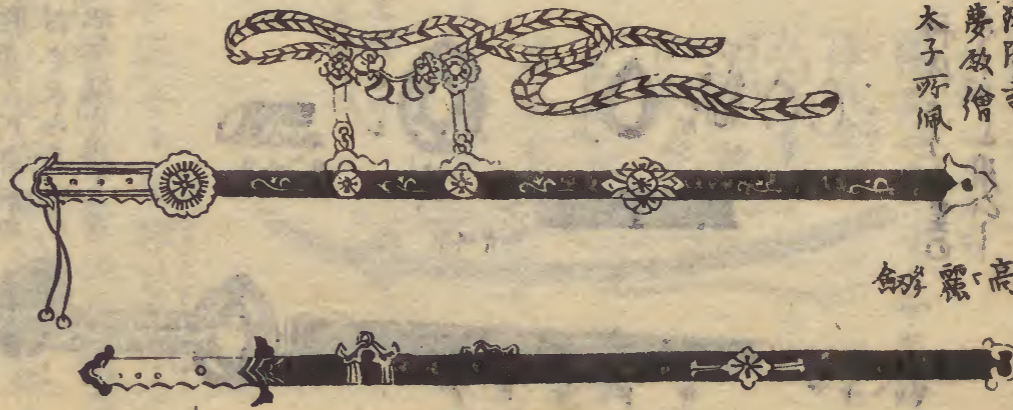


神代より天皇のくしと用ひし刀あり



高麗劍

法隆寺  
夢成僧  
太子所佩



東大寺寶物  
高麗劍

尾鞠 豹皮 虎皮 熊皮

三茶家所藏シリヤ

ワルニキ  
猿卷

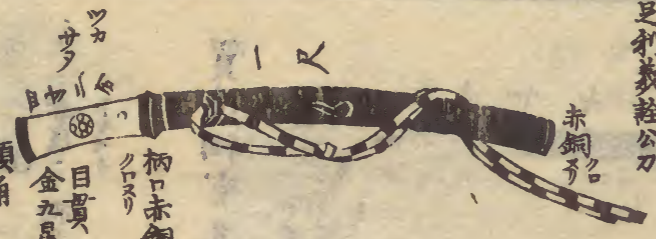


美鋸



刀

京師一回家所藏  
足利義詮公刀



柄口赤銅  
目貫  
金九星  
頭角  
ツカ

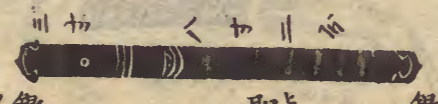
一措仲家  
所藏金刀



小柄金

折金  
折金  
折金  
折金  
ツカ  
ツカ  
ツカ  
ツカ

清盛公所佩刀



銀上  
銀上  
ノカ  
ノカ

小烏丸

朱雀院

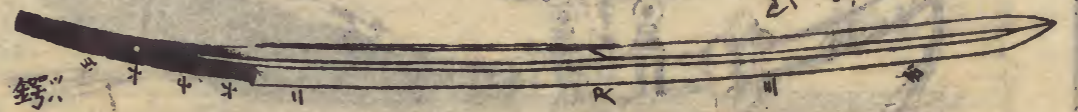
平貞盛

賜人



目貫  
柄口

大和錦  
包



鐺  
徑寸



鐙

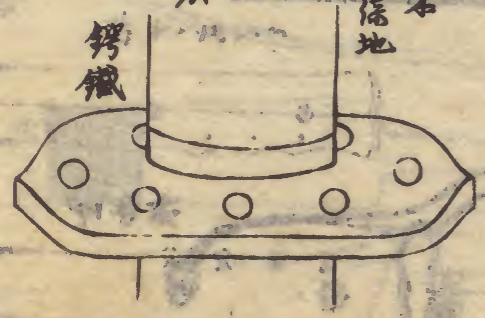
鐙銀  
仗形  
起



山形作刀  
可葉

聖武皇帝  
御物  
大和國

柄唐木  
鞘黒漆地  
美末  
色條  
繪劔  
可葉



鐙鐵

十六

丹波忠守佩刀

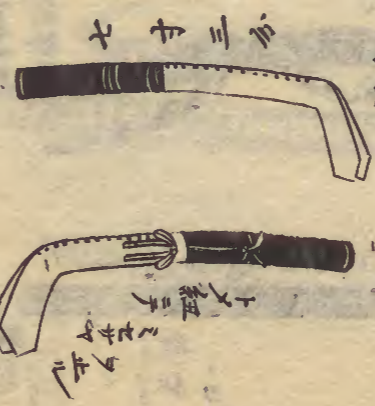


ヒヤ子ハ種ノリ  
別出ス  
モヤ子  
大和錦  
燈袋

赤皮ニテ柄サヤ  
トモヤク

賀茂祠官某所藏ミセサヤ刀

白皮 打タレ三寸二分



ミセサヤハ帯ドノノ料シ



山形作刀



招ナクハム



金物銀



五十一分

身長三尺一寸七分



金

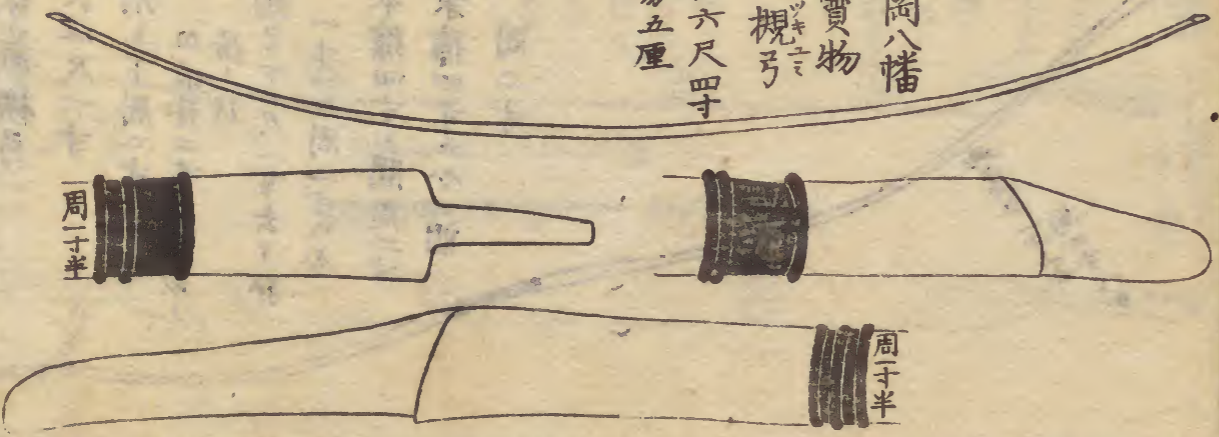
鶴岡八幡

寶物

規弓

長六尺四寸

七分五厘



周二寸半

周二寸半



成家藏槻弓

長五尺一寸

附上下周二寸八分

但通体二寸八分を以て  
法とい

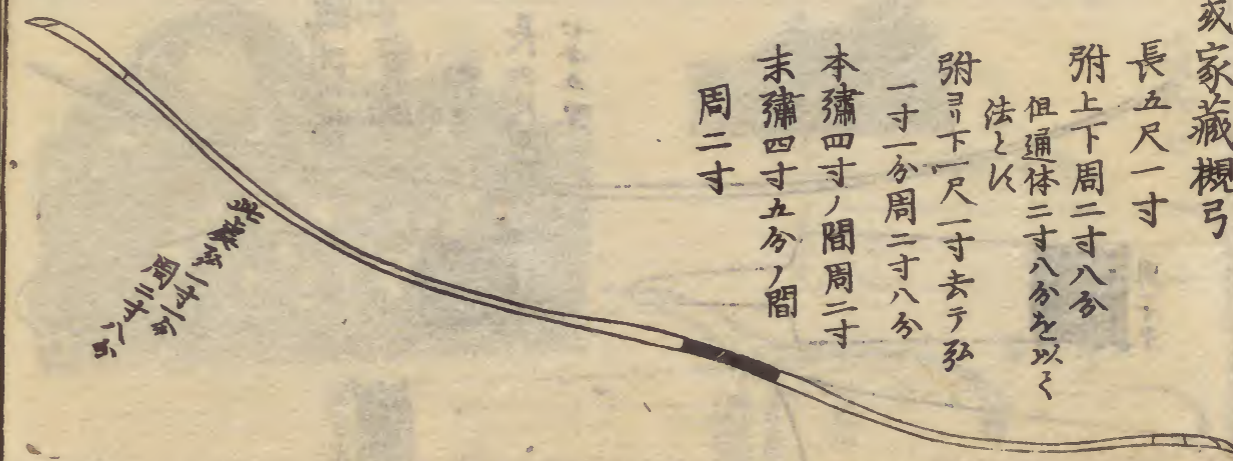
附弓下一尺一寸去テ弘

一寸一分周二寸八分

本彌四寸ノ間周二寸

末彌四寸五分ノ間

周二寸



弓の長  
五尺一寸  
上下二寸八分  
通体二寸八分

弓袋

幅三寸  
五ツ折ル

長九尺二寸

弘五寸五分

地布

色白

紺

袋

延喜式

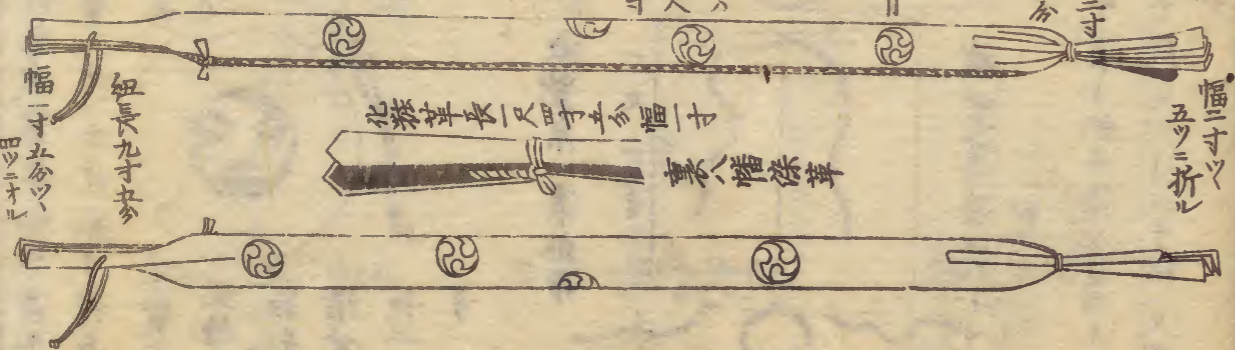
長一丈尺

三寸弘八寸

紫帛表

緋帛裏

トヤリ



裏八幡條草

化装草長一尺四寸五分幅一寸

紐長九寸五分

幅一寸五分ツ

四ツニオレ



靴

兵庫式熊革鞆料長九寸  
廣五寸 牛皮鞆手料長五寸

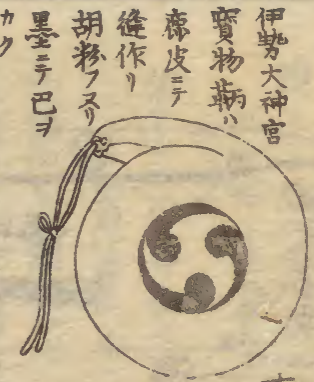
寸廣二寸

生絲縫

鞆料鞆

緒紫組

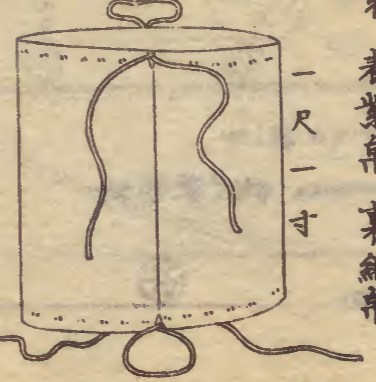
長二尺五寸



鞆袋 表紫帛 裏緋帛

一尺一寸

圓二尺三寸



緒紫革長一尺七寸

弘二分

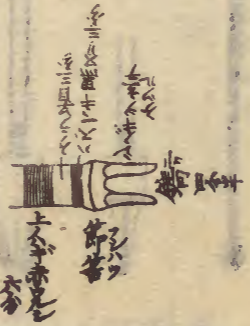
鞆を袋に納め檜麻筒に入る

麻筒徑一尺六寸五分深一尺四寸五分

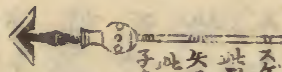
箭



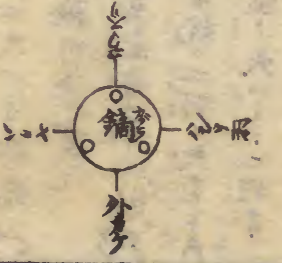
箭中ノ斗  
本公キ赤色  
一寸



鏡中ノ之



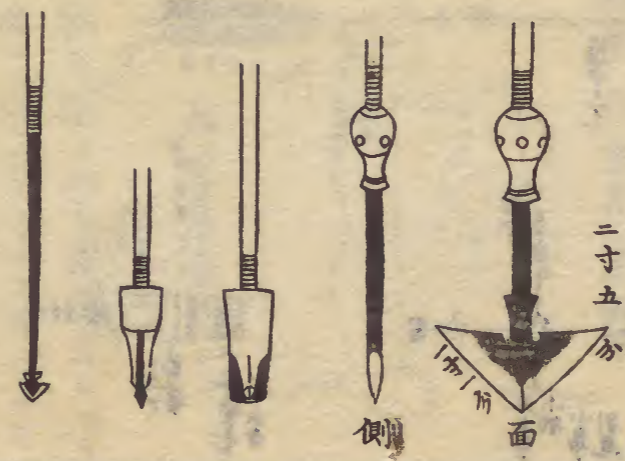
此間三ツト  
矢ノキキ赤色  
此間三ツト  
子ニキ赤色  
五分





大神宮式征箭長二尺三寸鏃長  
 二寸五分以鳥羽作之鏃塗金漆管  
 塗朱沙 又長二尺四寸鏃鋒以  
 鷲羽作之以雜丹漆畫之  
 天羽矢 高皇產靈尊所賜天  
 稚彥箭也古說ハ二羽ノ矢ナリト云  
 今モ伊勢ノ神宮ノ矢ハミナ二羽ナリ

法隆寺寶物古鏃

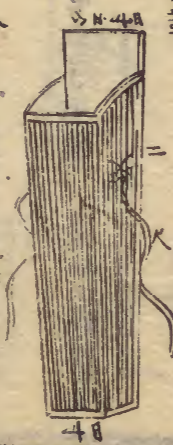


靴



檜ノ造リ節ヲ表小ナリ襟巾  
 ヲ裏表ナリ 縹紫革長二尺私  
 一十二分 箭五十度を盛

蒲靴



檜ノ他ニ蒲を編み表ノハハ  
 麻皮を以て頂ニハハ丹畫を以て  
 裏ニ著 縹紫革長一尺八寸

革靴

長一尺八寸上廣四寸五分下私  
 三寸八分調布を以て黒漆を  
 ぬる形全く蒲靴と同一けれど  
 圖を分る

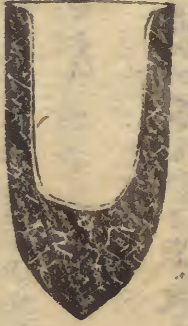
歩靴

歩入の帯る処を歩靴と云  
 五十隻の箭を盛置け九圓の



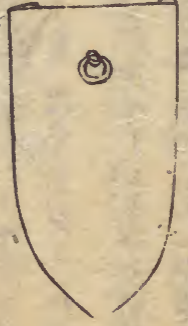
如<sup>カサネ</sup>物<sup>カサネ</sup>を<sup>カサネ</sup>版<sup>カサネ</sup>靴<sup>カサネ</sup>といふハ誤<sup>カサネ</sup>あり

前



長七寸三分

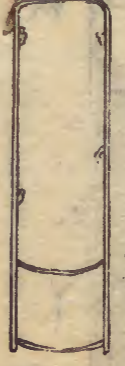
後



如圖ハ鏡<sup>カサネ</sup>取<sup>カサネ</sup>花<sup>カサネ</sup>瓶<sup>カサネ</sup>あり

上宮太子御靴

蒲柳ヲ編作<sup>カサネ</sup>り



東大寺所藏

十位服



八寸五分

東大寺所藏古鏝

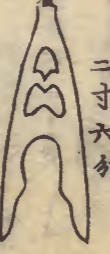
家藏古鏝



鳥舌 一寸五分

重四錢

龍尾



二寸六分

重八錢九分

鳥狩根



一寸五分

重二錢八分

蟹爪



二寸五分

重十錢

平根



三寸

重十四錢五分



狩籠

寛治年間ノ物



文安年中ノ物

木ノ曲テ化ル



後



六曜



二寸二分

重六錢五分

柳葉



二寸五分

重十二錢五分

細根



三寸二分

重七錢五分

鴨首



二寸五分

重十錢五分

鰩尾



定能正 二寸五分

鋒根



二寸

重十錢

鋒根



二寸

重八錢

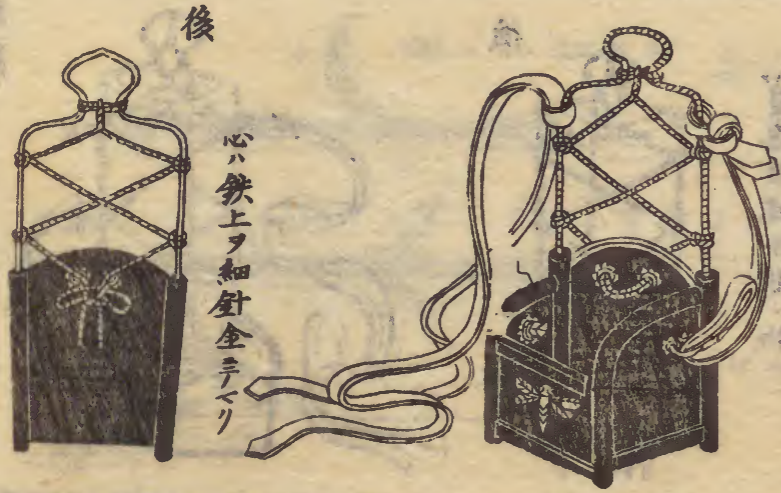
燕根



三寸

重十錢六分





後

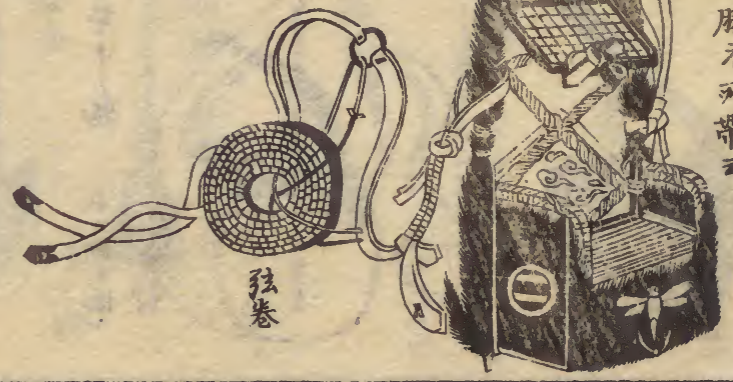
黒塗<sup>ノスリ</sup>箆<sup>エヒラ</sup>  
下総香取社寶物



底



後



逆頰<sup>ナツラ</sup>箆<sup>ヒラ</sup>  
細川勝元河帶云

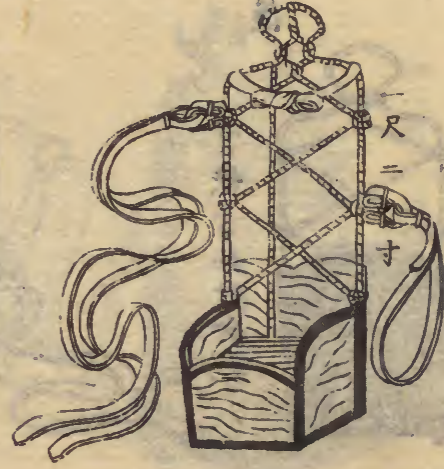
逆頰



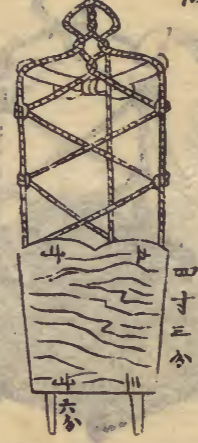
女戰槍



差籠

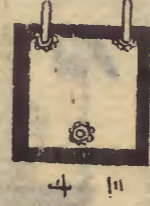


後



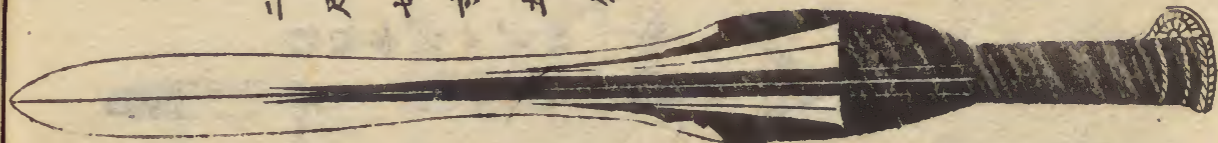
寶德長祿年間物

底



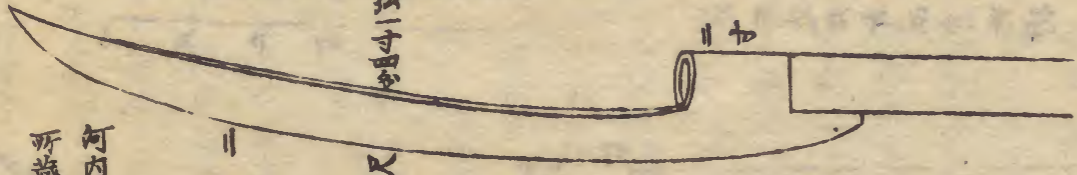


神代鉾



二尺七寸五分

筑紫長刀

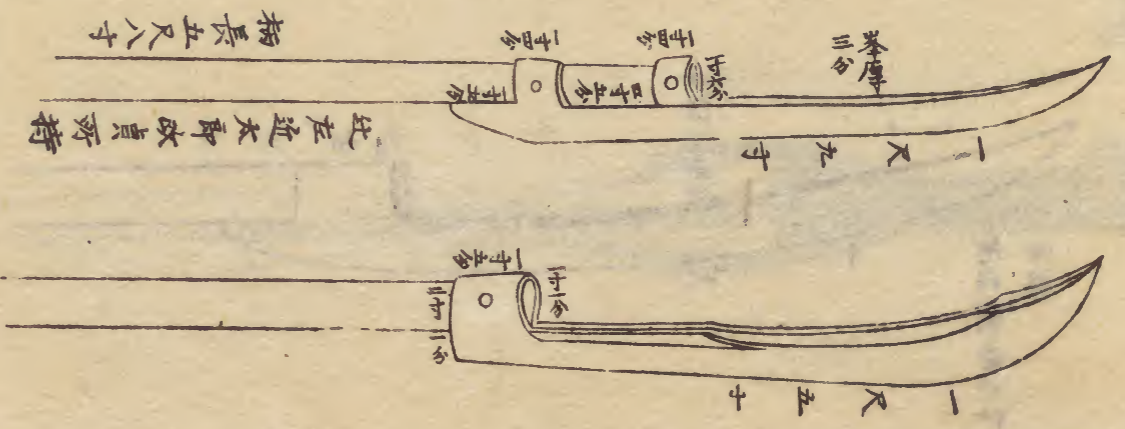


二尺七寸五分

河内國壹井社  
所藏

廿五

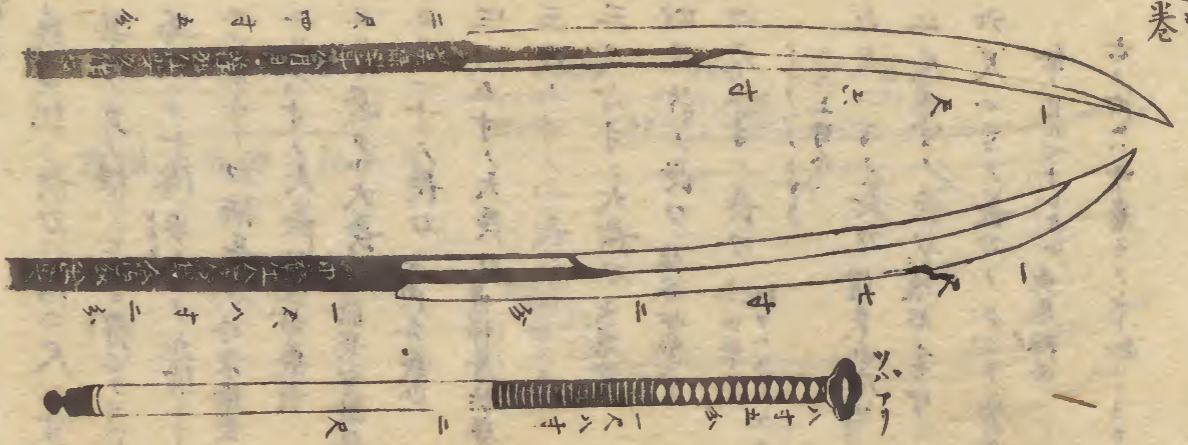




長刀

義貞記 長刀ハ長二尺三寸柄  
 其ノ身ノ根ノヒクニ齊シクスレ  
 馬上ニテ十徳歩立ニテ九徳トアリ  
 二尺五寸ノ白柄長刀 冷泉隆豊  
 二尺八寸ノ大長刀 三好義長  
 三尺ニ過タル大長刀 能登守教  
 三尺一寸ノ長刀 大内介義弘  
 三尺五寸ノ大長刀 戒淨房祐慶  
 三尺五寸ノ小長刀 和田立郎  
 三尺六寸ノ大長刀 大塔宮  
 四尺許ノ長刀 塩谷伊勢守  
 四尺八寸ノ長刀 志田草子  
 コシラヘトアリ 柄ハ三尺五寸ニ  
 小林上野介  
 五尺二寸ノ長刀 滑良兵庫頭  
 五尺三寸ノ長刀 塩谷イセ守  
 六尺二寸ノ長刀ノダビラ廣ニテ  
 金ノヒルニキタル 長尾理心  
 右ノ内ニハ中巻ナラント知レモアリ





曹

新羅三郎  
義光曹



初代  
明珍宗介作曹

久壽  
文依  
身向





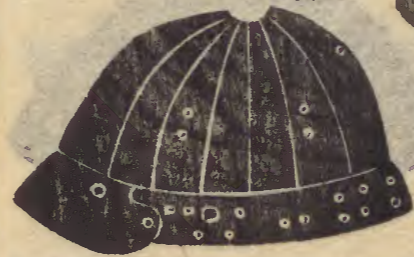
二代宗清作  
住鎌倉

住京一重  
三代宗行作  
承元年中



四代宗益作  
住紀伊

承久  
天福  
年中



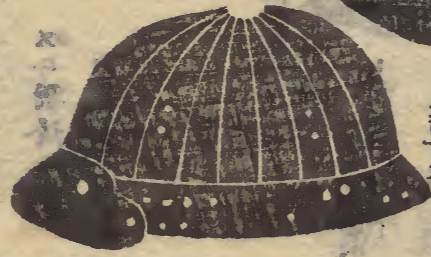
五代宗重作  
住依  
年中

住小田原



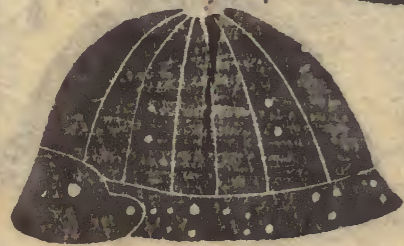
七代宗純作  
住京九宗  
德治年中

住鎌倉  
六代宗忠作  
弘安年中



八代宗光作

元亨  
年中  
住九条







鎧 (Yoroi)



以下義頼と云

十一代義弘作

住一条堀川

明徳年中

十一代義紀 應永

十一代義則 長

十一代義長 宝徳

十一代義有 文下

住鎌倉

十一代義保 延徳

十一代義通 大永亨禄年

住一条堀川

住小田原



十一代宗安作

住一条堀川

建武年中

九代宗政作

住一条堀川



以上明徳十一代

曹之叔家也

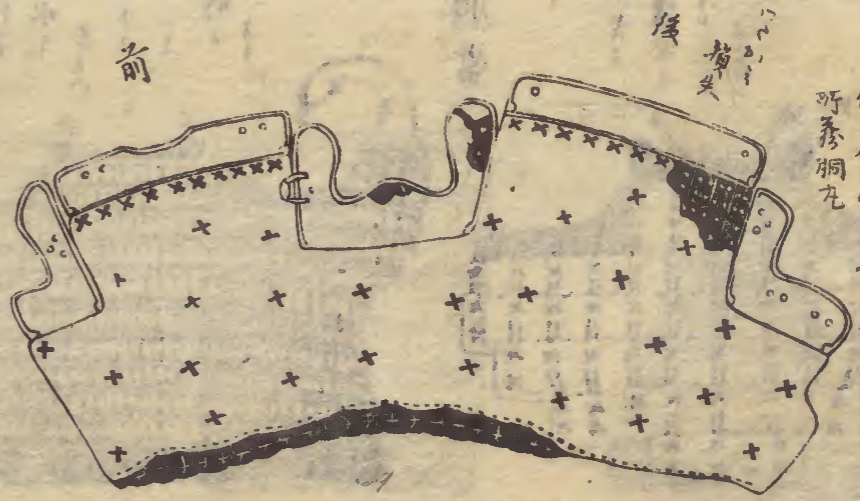






胴丸

射向蝶ツカセロク削ノクレト廻シ  
馬手ノワキニテ列命スルヤツニシタルシ  
信外伊予高遠坂町村諏方神社  
所養胴丸

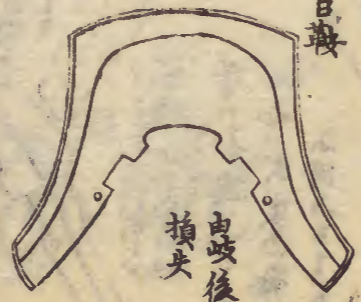


總之革ふく包一ハ符衣直垂乃  
下へ着るとして便よきなりあり  
後世の物より袖革摺付一も有り  
草摺のかまハ腹巻と同

靴

平貞盛朝日靴

高九寸五分



由岐後輪  
損失

右天将頼朝御靴

一キエ松竹梅  
フクリン  
逆ノニロ



高八寸八分





軍陣靴

伊勢貞長作

甲冑の靴あり



水干靴

同作

水干装束の時  
角巾を靴あり



縁螺鈿 水晶地

等々和鞍ふく

あれは武家の鞍  
不用あることあり

式

式

はを式の衛と

ワハハ日月星乃三

光了孤虚を配

高き一形あれ

遁甲六壬太一の

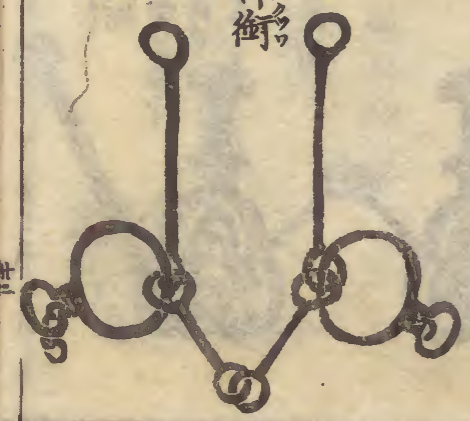
之式の理ふ本門あり

軍配乃圖あれは各身一とされ

軍配の形とワハハは之光孤虚の圖

のこもまふふ圖符の名とよみ誤

韓銜





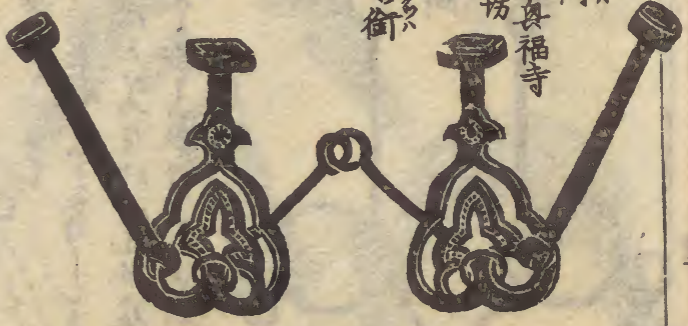
鐙



聖武  
天皇  
御物

葵  
鉾

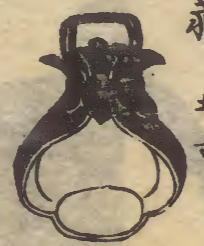
義經  
鉾  
南都興福寺  
勸修坊  
所産  
青葉  
鉾



東大寺藏  
五寸  
輪  
鐙  
三寸五分



長門一宮社藏



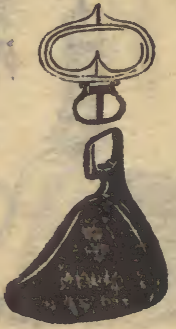
熱田社藏  
五寸



熊野神寶  
壺  
鐙

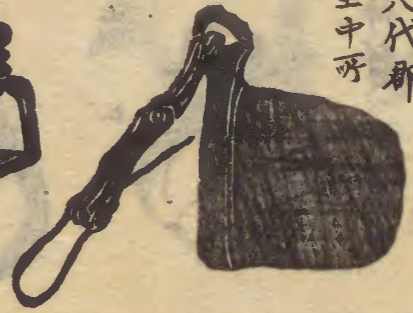


法隆寺藏壺燈



甲斐國八代郡  
堀口村土中所得

朝鮮燈



四寸五分

舌長燈

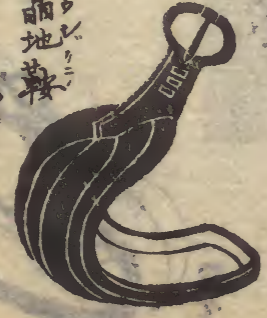
鏡鞍ふり  
燈あり



舌短燈  
半舌

水晶地鞆

燈あり





鏡鍔



銀鍔

武藏鍔



木あり

作鍔



新紫  
とあり全  
あり

具装

馬鍔字、魏武軍策

令ニミ工具装字、唐

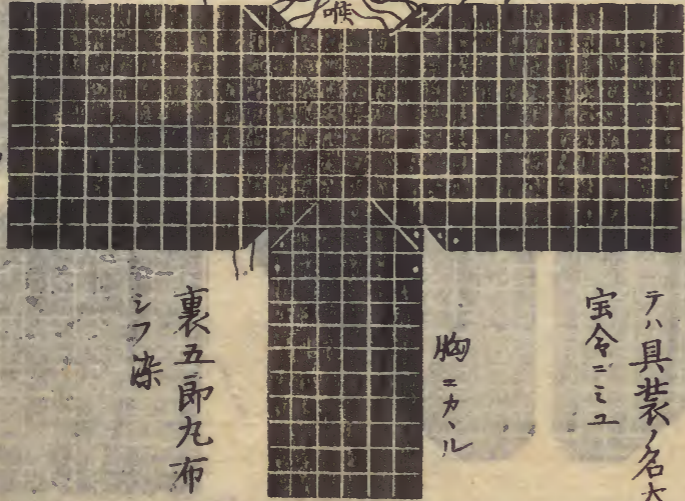
六典ニミユ日本ニ

テハ具装ノ名大

宝令ニミユ

左ノ脇ニカ、ル

胸ニカ、ル



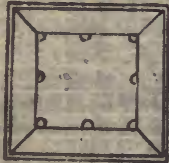
裏五郎丸布

シフ染

右ノ脇ニカ、ル

綴革ノ穴如圖

七分



金漆塗

札一枚

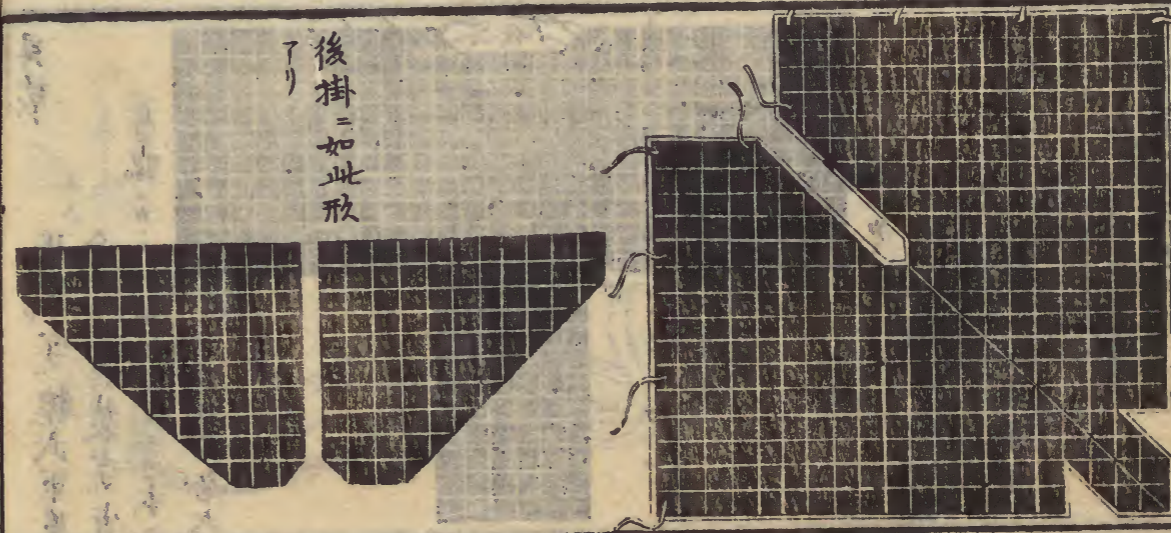
革ニテ

作リ四

隅高ク中凹起ス



後掛



後掛ニ如此取アリ

鞭

中虎定平朝臣鞭 建武中

我身ノ寸ニテ二尺八寸

勝軍藤

黒クヌリ

取柄六寸

藤ニラズ

フシ

玉地藤

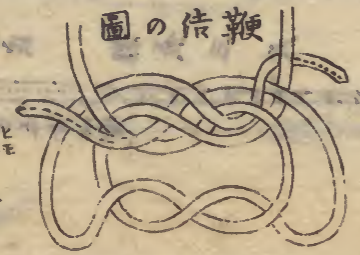
ヲマリ

勝軍藤



赤塚練馬邊  
多クアリ蔓ノ  
如キ本ナリ

鞭の結の圖



右ニニ紐ノ結ヒ  
ヲ直シクケメノ方  
ヲサシキリ折カヘシ  
結ヒヘイレソクイ  
ニテ留ル



々々美長清竹根鞭

紫皮 總長三尺  
六寸五分口籠



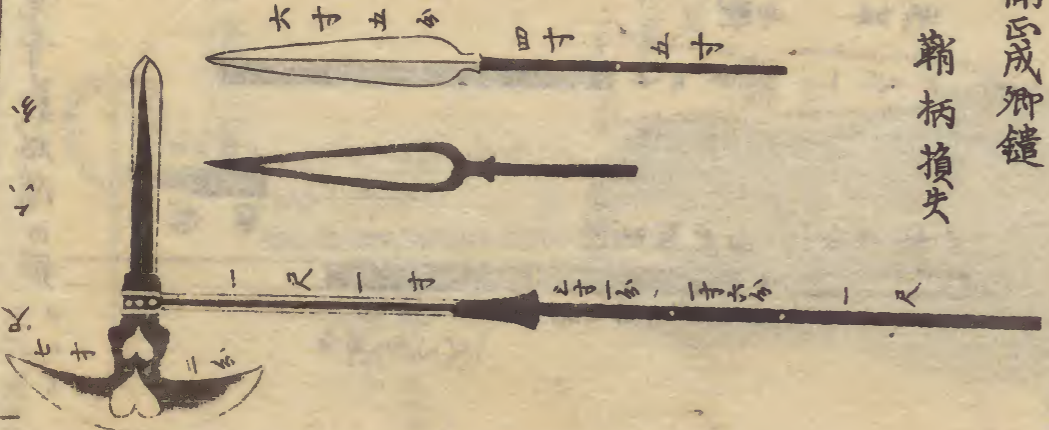
八幡叔貞任合戦の時  
竹根ノ鞭ニテアシカリシト  
云テ小笠原ニテ用ヒスト  
出陣圖書ニシユ

鐘

楠正成卿鐘

鞘柄損失

ホウテンゲキ  
と云

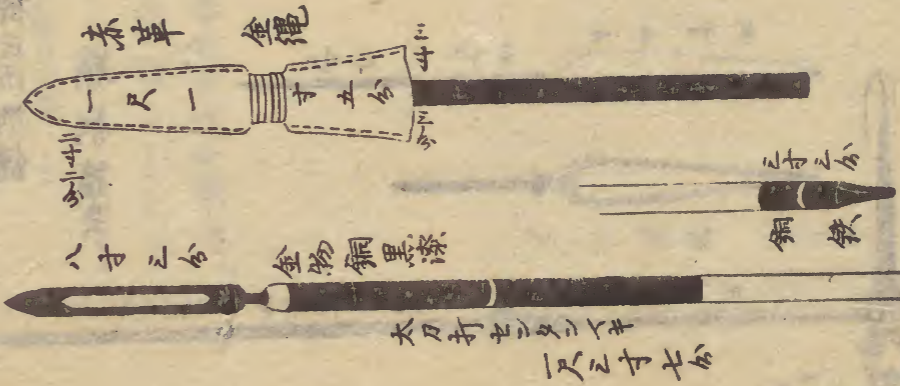


七寸



大覺寺義昭僧正鐘

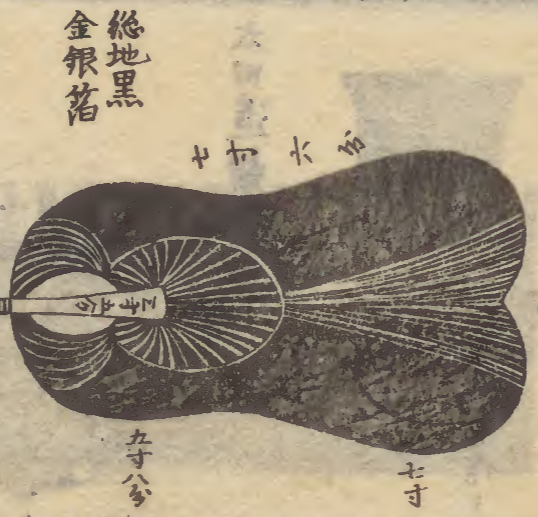
旦利義滿  
公五男



總長九尺二寸二分 除鑿身

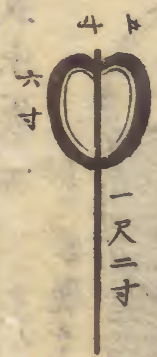
嵯峨大覺寺現存

總見院右府三軍配 丹羽氏家藏



總地黒  
金銀箔

上杉謙信軍配



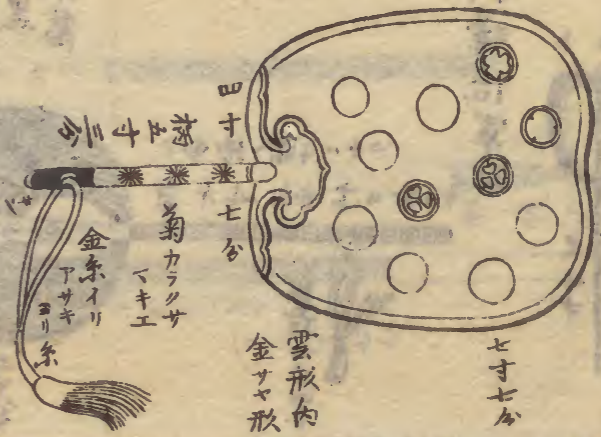
柄七寸三分行ノ合セ  
二合余ノ厚ニナリ  
紐長七寸四分



新田義宗軍配

地アシロ 春慶ヌリ

三 十 四 十



太田道観軍配

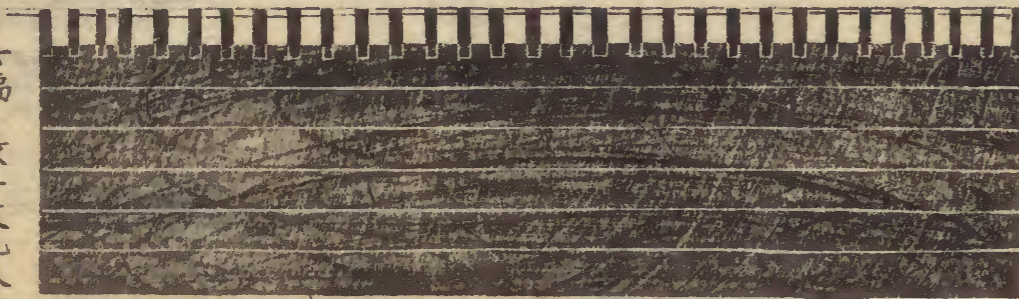


銅  
村糸  
伊賀守包道作ト  
銘下リ

紺布幕 兵士一人一口自備

裏白布

天寸

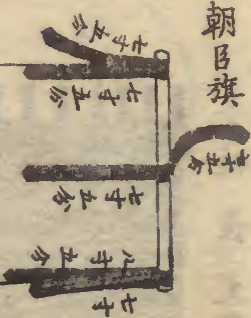


後世  
五幅  
用

六幅 長一丈九尺五寸  
紐卅 一尺二寸を折之四  
重き用也  
卅九



頼義朝臣旗



地白帛

總長七尺八分

一尺二寸

秩父会綱  
を九を初  
とて昔例  
と名符を  
重忠  
りて

那須餘市宗隆旗



地帛紺

武田信光旗

今目 四目



四尺二寸

地帛 白地 紋朱



武田信玄旗

裂不  
聖澤寺藏

一尺六寸五分

孫子旗 紺二幅 文字合 長一丈二尺二寸 地縮

疾如風 徐如林 侵  
掠如火 不動如山

二尺五寸七分

第一幅朱條 文字合

南無敵方 南宮法性 上下如神

長一丈四尺六寸

母衣

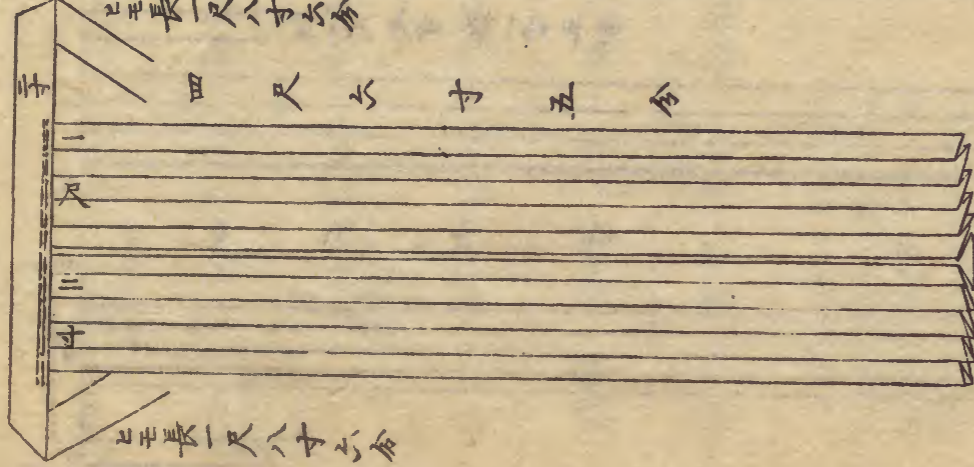
貞和五年正月  
大草三郎左衛門尉公經保侶

長一尺八寸六分

四尺六寸五分

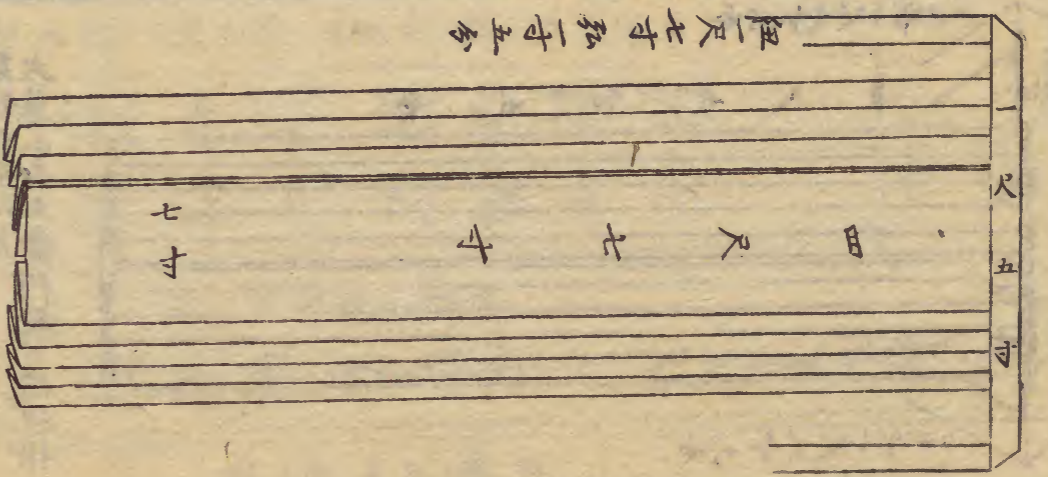
長一尺八寸六分

地縮紫色 五幅





秋野彦六左衛門尉保侶



白指五幅六尺八寸五分

明珍系圖

宗德

人皇第八主孝元天皇御孫  
 彦太忍信命之子而紀氏之  
 大祖也号增田武内宿祢  
 事景行成務仲哀神功  
 應神仁德六朝而壽三百十  
 六歲興甲冑燥煉之業

宗忍

良一

宗風 宗秋 宗高

宗剛

宗元 宗内 宗勝

宗門

宗明 宗春 宗平

宗通

宗利

宗近

宗次

天智帝時人  
鑑吳獅子玉甲者

宗歲

宗松 宗森

桓武帝時

宗代

宗品

朱雀帝時人  
宗永

宗國

宗虎

宗依

宗下

宗盛

宗季



天曆永延災 長曆災

宗實 宗一 宗邨 宗仲

賴光甲曹作

宗常 天永元曆

子後宗次

宗吉 肥後守

以上雖可疑姑存以俟後訂正

宗介 增田出雲守 久壽文治間

初住雲州 後移京九條

宗清 刑部大夫 建久正治

宗良 右中 平内 住一条堀川

宗秀 左内 吉次

宗泰

宗行 兵部大夫 承元住一条

宗直 大角

宗益 右兵衛尉 承久天福 住紀川片山

宗兼 右平

宗隅 左平

宗重 左京大夫 室治 住小田原

宗忠 新大夫 弘安 住農刈

重家

吉重

宗繩 右近大夫 德治 住九條

宗義 對馬守

宗光 兵部大夫 元享 建武 住九條

宗則 左近大夫 建武 住一条堀川

宗政 右兵衛佐 嘉慶 住一条堀川

宗安 義滿公賜攝外河邊郡服部 七十貫文

宗時 民部大夫

義弘 左京大夫 明德 住一条堀川



義紀 左兵衛尉 應永 同上

義則 五郎 正長 同上

義長 六郎大夫 室徳 同上

高義 式部

義有 新次郎 文明 住鎌倉

義久 久八

成國 住上列 成國 住酒匂 成近 住上列白井 成重 住小幡

信吉 住小田原 信廣 住雪下 房重 住小田原

房則

義保 三郎突 延徳 住常列府中

義通 左近突 住小田原

勝義 氏家 七郎 住甲府

宗則 宗義

信家

信房 五郎 房家

天文 住甲府

勝家 上列白井 勝心

信康

貞家 平六 又八郎

家房 文五郎

氏家 七郎大 大永

宗家 久大夫 天正元和

景家

家久

宗信

宗清 但馬

宗長

宗秀



宗利 長門大和

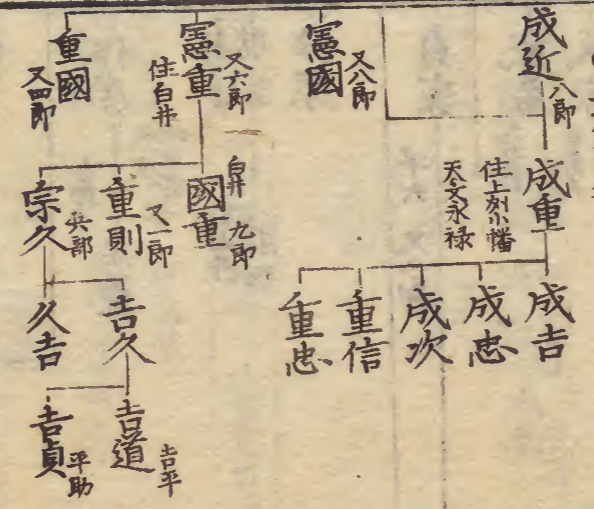
春信 木助

宗介 式部大隅  
正保重 貞享元祿享保間作

邦道 式之丞 早世

宗主

●上州明珍



●明珍脇

義通 勝義 勝正 勝正 (太郎)

勝家 氏家 (信家子) 信房 房家

房吉 房宗 家房 信吉 (吉久子) 康重

信廣 (信喜子)

成國 (延徳) 成國 成近

明珍系圖傳寫誤最多比年  
搜索善本未得他日訂正而煩  
抜刻

鞍子系圖

大坪入道道禪 桓武天皇在代  
左京亮有成 應永十五卒

直弟 大坪彦三郎吉利 入道号直弟

伊勢因幡守貞長 永享六四七卒七上

伊勢加賀守貞直 貞長嫡子 宝徳三六七卒



三 伊勢因幡守貞仲  
文明十五十七卒七七

四 伊勢因幡守貞誠  
貞仲長子  
明應三十三卒四十三

五 伊勢左京亮貞泰  
永正十六八卒五十一

六 伊勢因幡守貞倍  
元龜三十六卒七十一

七 伊勢因幡守貞常  
入道常安 寬永四十九卒

八 伊勢貞重  
山内氏子 寬文五十三没

九 伊勢貞景  
安田氏子 延宝四十没

十 伊勢貞房  
住江戸小石川 延宝五十九没

十一 伊勢貞俊  
矢助仙登  
享保十七五廿没

十二 伊勢貞城  
因幡 貞貞房女  
室曆五六没

十三 伊勢貞方  
因幡 與市  
安永三十三七没

十四 伊勢駿河守貞雅  
貞長四男 五郎  
○伊勢同姓曲尺

十五 貞宗  
貞親子 伊勢守  
貞陸 貞宗子  
貞忠

十六 貞孝  
貞仍 下總守  
貞宣 上野介  
貞弘 上野介  
貞則 貞弘子  
貞茂 貞仍子  
貞順 貞則子  
貞興 貞良子  
貞三郎

十七 伊勢弟子  
千秋持季 貞直  
千秋高季 貞泰  
宮行信 貞誠  
萩原豊平 貞雅  
富山政光 貞雅  
播磨宗久 貞誠  
沼田光延 貞誠  
沼田貞綱 光延子  
沼田光兼 貞綱弟  
沼田統兼 光延二男



沼田元清 光兼子 大和俊行 貞信弟子 宗知  
 大和一要 俊行子 中澤重綱 日持弟子  
 関藤倉助 貞常弟子 竹内常重 同上  
 入見良以 同上 山内重武 貞重弟子  
 安田正重 貞重弟子 安田俊勝 貞重弟子  
 安田景俊 俊勝子 安田勘兵衛  
 安田俊林 貞重弟子 丹治重文 貞重弟子  
 丹治景倍 重文子 藤沢景成 貞景弟子  
 藤沢盛信 景成子 小笠原勝盛 長吉  
 津田房繼 貞房弟子 福永金定 同上  
 鶴田織右門 貞俊弟子 伊勢貞久 貞成弟子  
 伊勢貞敬 貞久子

○辻氏傳系  
 北条幻菴 早雲三男 長綱 朝倉政元 右京進 寛永十年八月廿九日

朝倉元能 勘解由左門 兼德元九廿六没 二 越前國人 左近太郎  
 天方通綱 藏守 元久三十一卒 天正六年生 寛永十八廿九没 五十九 辻政貞

二 辻山城大掾政也 政貞長子 寛文十一年六月廿二日

三 辻山城大掾政直 政貞末子 為兄子 初直政 寛文八年五月没

四 辻山城大掾政長 政直子 長七 初政知 享保十五年八月没 六十

五 辻山城大掾政良 延享四年七月没 卅

六 辻山城大掾政興 造價之助 宝曆四年五月没 卅

七 政共 政良妻弟 八 政雄 松井村卷三男 山城

九 政壽 藏 政信 山城

○井關氏 成云受業於貞雅 未知其实  
 井關太郎次郎 井關 永正大永 天文 永祿  
 井關次郎左衛門 江戶一世 大祿中 賜卅六貫文地  
 元和元年改卅六貫賜二百四十六俵



二 井関二郎左衛門

三 井関二郎左衛門

四 井関二郎左衛門親信  
上総守 遠山源次居士

五 井関二郎左衛門家政  
上総守 八曲居士 元禄五十六没

六 井関二郎左衛門親政  
出雲守 元禄五十五没 為元子嗣業

七 井関次郎左衛門家親  
享保十四嗣

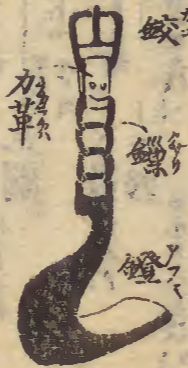
八 井関次郎左衛門  
享保十四嗣

九 井関二郎左衛門  
享保五十五嗣

或云井関氏出於江外北郡其  
曲尺受之於伊勢貞宗云余搜  
索殆二十年未得正系後人訂  
正焉

○鑑工系譜

上古ノ鑑ハカ革カ革鐘カカ鉦カカ具カカ貫カカ鞞カカ  
ノ四種ヲ具シテ用ヲナス



延喜式ニカ革料牛皮長三尺以  
一寸五分上リニニニ裁テ長一尺五寸  
弘一寸五分ヲ用エ 鐘料牛皮長  
三尺廣三寸ニ条トナリ  
貫鞞ハ虎皮ニテ作ル



貫鞞ハ今ノ巾着皮ノ用ト同シ  
ク鉦具ノ脛ニアタレテ避ルルカ  
紐由木ニ貫鞞着ノホヲナシ

然ルニ武藏國ニテ鉦具カ革鐘ヲ  
一具シテ作り出シツルヲ武藏鐘ト  
稱セシナリ 今故板ト云々ニ虎ヲ厭ルハ  
上古ノ鑠ノ形ヲ存セシナ  
ルハ其工人初ハ秩父郡ニ住シ後ハ



足立郡二住

秩父郡住

足立郡住

武藏鐙

武藏鐙

仁壽頃

大明頃

武藏鐙

總兵衛

金子家昌

武藏鐙助左衛門 住箕田村  
天正十八十七没

家永

武藏鐙三郎左門 住箕田村

家貴

武藏鐙長左門 貞國 武藏鐙久兵衛  
住江戸 寛永十  
住江戸 貞國 寛永五十九  
主没

貞清

同甚兵衛 貞純 同九右衛門 甚兵衛  
住江戸 大和二十  
住江戸 八

貞常

同甚兵衛 國吉 同甚兵衛  
住江戸 享保九 住江戸 安永三十五  
十九没

正國

同甚兵衛 正國 同甚兵衛  
住江戸 享和四 住江戸 大和二十  
三没

武藏鐙

喜兵衛 武藏鐙清左門  
正國 喜兵衛 正國 武藏鐙清左門  
明曆四正没 享 宝永五十九没

○京都鐙

七条鐙工東鏡ニミレ共今無

喜田村喜兵衛

住堺町夷川西

友貞

住東洞院二条上

川勝

住二条フヤ丁 家久

喜田脇

住九太町フヤ丁 有久

百足屋

住夷川高倉

重次

住大仏伏見通

重信

住新町仏光寺下

重長

住三条橋東三町

以上皆元禄前鐙工象眼師

○加賀鐙工

助左衛門國政

村澤國喜

○尾張知多鐙

○上野那波鐙

○若狹熊川鐙

○近江日野鐙



附云

平城宮より天下をりりけるは  
天下の男子廿一歳より六十歳  
とを正丁と定め賦役不後しむ  
賦役といふ正丁一人不付

組比東口把輪

輓六斗并 今斗の二斗  
二斗を考し

但正丁一人不付由二辰を給ふは

二辰より綿百束は輓六斗不付は

今斗不付四斗八斗は并今斗組を考

も抄今斗考し四斗六斗二斗未考

抄未二斗七斗七斗を考し一年

小割考し一日七斗八斗余不考

庸

一年不  
十日役を勤む 勤まれば 布今由天  
考し二丈八尺を考し

調

布四尺三丈八尺を考し

是正丁一人一年の賦役ありは正丁  
の内<sup>ハシヒキリ</sup>倅<sup>ツキ</sup>子<sup>コ</sup>事<sup>コト</sup>力<sup>チカラ</sup>を<sup>ヲ</sup>除<sup>ク</sup>き<sup>テ</sup>その<sup>ノ</sup>餘<sup>ヲ</sup>を  
二<sup>ニ</sup>分<sup>ク</sup>し<sup>テ</sup>一<sup>ノ</sup>分<sup>ヲ</sup>と<sup>シ</sup>兵<sup>士</sup>と<sup>シ</sup>軍<sup>團</sup>  
といふ

軍團の國より郷土不より

二周も之に圍むなり

兵士八五人を位とし十人を一火

とし五火を一隊といふ

五十人  
あり



一隊了隊正人 二隊不隊帥又  
四隊不校尉又 廿隊不校尉又  
少尉三人之懐又を置く

但兵士一人別よ  
粗綱を収めく庸を免ま

櫛六斗 今升八升余

塩二升 今升一升九分余

弓一張 弦袋 弦二束 伍系十

隻羽録 一 太刀 一 刀子 一

礮石 蒲帽 飯袋 水筒

盥桶 脛巾 鞋を備へ

上番の年ハ三月以下を待た

ぬり後軍ハ櫛を括

りあり

十人ト小紺布幕 一張 小笠

鍬 鋤 鋤 斧 小斧 鑿

鎌 鋤 を用意せむ

一隊ト火鑽 熟艾 一升

手鋸 一と用意せむ

兵士一年ハ京へ上りむ上番と

ソハ是レ京よりハ衛士トソハ

衛士ハ調庸トシ免せらる

左右衛門府左衛門府配と

順ハ 督一人 佐一人 大尉三人

少尉三人 大志二人 少志二人 醫

師一人 門部二百人 衛士府ハ

物科二十人 衛士府ハ 使科二十人

衛士府ハ 直丁二人 衛士あり

六十人 衛士ハ鬼履腹巾 桃漆漆 白布

草 白脛巾 草鞋 一と横カを

草一と箆とくハ槍をとる

會集等の日ハ 挂甲を着し

息衫を着る

衛士左衛門府不入てハ

羅城門 左京坊門

朱雀門 義福門 都方門 侍賢

門 陽明門 上東門 建智門

傳聲門を守り

右衛門府ハ入りハ

羅城門 右京坊門



朱雀門 皇嘉門 談天門

藻壁門 啓雷門 上西門

安嘉門 偉賢門を守る

左衛士府より

長樂門 延政門 嘉陽門

安嘉門 春花門を守る

右衛士府より

永安門 武徳門 進義門

徽安門 修明門を守る

衛士勲勞ある文武乃融み従て

出身と其の法

正色當門 明於禁察 監當

之處能蕭軒非者為上

八年若し上あるは三階を進め

て叙せ無任乃衛士は六初位下

叙と 六初位下叙してのち

六年若し上あるは十二階を進

む十四年若し六初位下は正六位

下叙し 七位以下進む

時々奏聞して別勅ふる

正六位上叙して後二年若し上

なりは又十二階を進むは正六位

位より十三階は正五位なり是を

考ふ五位以上是ると云凡廿年の

奏聞して後五位下叙し

は勲勞を以て叙せし衛士は

國に叙る時於ての位を以て

五位衛士の國に去る父子若し

探役を免さる子に陰位小依

て嫡子に後八位上叙し庶子に

後八位下叙し内舎人大舎人

東宮舎人より

内舎人の九十人あり帶刀宿衛

雜使若鴛鴦分衛前後

大舎人の八百人あり左衛下

東宮舎人の六百人

六位以下八位以上の衛士の子に選

とれりよ大舎人中に兵衛下

使計ふる

兵衛の左衛より八百人あり



建礼門 承明門 宣明門

朝平門 九女若守里

建春門 宣陽門 左兵衛

右守里 宣秋門 陰明門

右兵衛若れを守り

兵衛、既ふ勲功兵士の子弟に  
故に中世とれた重代の兵と称  
一或ハ譜代の名を重以兵衛に  
使部の上座番長の下ふりを課役  
とゆゑさる 出身の法ハ八考を以  
てん

八考上ハ三階を進め

八考中ハ一階を進め

四考上ハ二階を進む

五位以上進む法ハ衛士と同一

一ノ年先ノ宿衛ニ堪えれハ

國ノ故とれ郡司ヲ補さる

郡司トハ郡大領 少領 主政

主帳をよみ

郡司の子弟ヲ馬を能とる者

一郡より一人ハ一考ノ兵衛ト

郡司の女子ヲ選り官入ると采

女と云

五位以上の昇進ハ人材不足ハ

故に贅と云

兵士征伐ハ後ハ勲功とれハ

一度功ありハ十一等を授く

二度功ありハ十等を授く

三度功ありハ九等を授く

四度功ありハ八等を授く

五度功ありハ七等を授く

六度功ありハ六等を授く

七度功ありハ五等を授く

八度功ありハ四等を授く

九度功ありハ三等を授く

十度功ありハ二等を授く

十一度功ありハ一等を授く

十二度功ありハ一等を授く

十三度功ありハ一等を授く

十四度功ありハ一等を授く

十五度功ありハ一等を授く

十六度功ありハ一等を授く







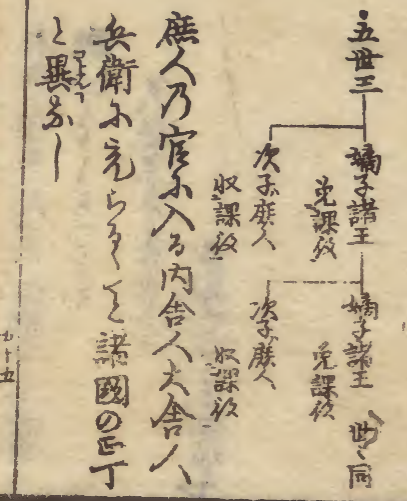
春宜陽二門へ九兵衛一隊宜秋陰  
 明二門へ宮兵衛二隊凡く六隊之  
 たくへ九兵衛正市へ四隊之  
 と隊ハ、前直と

日	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
	一隊	二隊	三隊	四隊								
外	四隊	三隊	四隊	一隊								
	一隊	二隊										

當直日ハ飯料二升を給と一隊了  
 一石<sup>之</sup>一隊<sup>ノ</sup>一年<sup>ノ</sup>を<sup>通</sup>し<sup>て</sup>千六十五石  
 二百五十石<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>て<sup>は</sup>百人<sup>ノ</sup>配<sup>當</sup>を<sup>日</sup>の<sup>つ</sup>り  
 一人<sup>ニ</sup>石<sup>半</sup>并<sup>み</sup>合<sup>り</sup>し<sup>て</sup> 今<sup>升</sup>不<sup>入</sup>之<sup>ハ</sup>  
 升<sup>ニ</sup>合<sup>せ</sup>り<sup>不</sup>儀<sup>ふ</sup>く  
 七<sup>十</sup>二<sup>年</sup>二<sup>升</sup>二<sup>合</sup>余<sup>三</sup>  
 兵士を<sup>し</sup>て<sup>東</sup>西<sup>邊</sup>を<sup>成</sup>り<sup>む</sup>せ  
 を<sup>防</sup>人<sup>と</sup>し<sup>て</sup>本<sup>守</sup>府<sup>鎮</sup>守<sup>府</sup>等<sup>ハ</sup>  
 世<sup>々</sup>く<sup>一</sup>年<sup>成</sup>る<sup>あり</sup>  
 防<sup>り</sup>る<sup>國</sup>ふ<sup>ハ</sup>是<sup>ハ</sup>二<sup>年</sup>の<sup>内</sup>改  
 を<sup>免</sup>せ<sup>ら</sup>る<sup>こと</sup>  
 右<sup>ハ</sup>上<sup>古</sup>兵<sup>士</sup>の<sup>制</sup>り<sup>軍</sup>防<sup>令</sup>  
 職<sup>改</sup>令

天子の子を皇子とし皇子の子を  
 皇孫とし皇孫の子を皇曾孫と  
 いひ皇曾孫の子を皇玄孫といひ  
 皇玄孫の五世王と稱し皇親の  
 列不入られざりしか慶雲二年より  
 八世王も皇親の列より其子孫嫡  
 と相承りて行世王と稱し諸王の列  
 たり

皇親ハ課役をゆるさる相庸調  
 を出さるる也  
 たり一五世王乃嫡子の諸子の列され  
 とも庶子の脱り廢人おれ相庸調  
 を出さるる也





長権源平兩家小歸字一縁由ハ  
猶ハ多ク云ハレシ

天保十年庚子十月

栗原孫三郎源信光

官許 天保十四癸卯年四月

江戸日本橋通四丁目

金花堂須原屋佐助



兵権源平兩家小歸<sub>り</sub>録由<sub>り</sub>  
猶<sub>り</sub>云々云々

天保十年庚子月

栗原孫三郎源信九

官許 天保十四癸卯年四月

江戸日本橋通四丁目  
金花堂須原屋佐助

Handwritten marks or characters, possibly a signature or seal.



48  
 内閣文庫  
 和書類  
 七三三  
 冊  
 架